

# 第1章

## 子育て・子育てエンパワメントへの根拠に基づく実践

### 1 プロとしての根拠に基づく実践とは

子育て・子育て支援のプロとは何だろうか？

プロと言うためには、何が必要だろうか？

① **プロ魂** (プロとしての哲学 (考え方)) : 「どんな時でも子どもと保護者の**最善の利益**を守る」という強い信念。子どもの育つ力、保護者の子育て力、地域や社会の子育て力を**エンパワメント** (力を引き出す、元気にする)<sup>1)</sup>、すなわち「育つ力と育てる力をはぐくむ支援」に最大限の力を発揮すること。

② **プロ技** (プロとしての知識と技術) : 「**科学的な根拠**」と「**経験的な根拠**」に裏付けられた豊かな知識と技術。プロ技を発揮するための、さまざまなツール (道具) を使いこなすことができる。

それでは根拠とは？

**根拠**とは、あなたの実践がそれでよかったと証明できる「よりどころ」のこと。

なぜ今、根拠に基づく実践が必要なのか？

少子化時代。核家族が増え、祖父母や親戚からの経

験的な育児方法の伝達が減っている。近所付き合いが減り、育児が孤立しつつある。メディアによる育児情報の氾濫により、その通りに育児できない不安や自信喪失が広がっている。保育園、幼稚園、総合園など、子育て・子育て支援への期待は高まる一方である。子どもも保護者も、専門的な根拠に基づく情報と支援を求めている。

一方、支援する専門職の側も大きな転機を迎えている。さまざまなニーズに対応するため、これまでの個別のかかわりの枠を越えて、さまざまな専門職のチームワークが求められている。そこで必要なのは、領域を超えた専門職の「**共通言語**」、すなわち「**根拠のある技術**」である。

まさに、社会からも専門職としても、プロとしての根拠に基づく実践が強く求められているのである。



### 2 根拠に基づく実践のポイント

さてプロとして、しっかり「よりどころ」を証明するには、どうしたらいいだろうか。

そのためには、次の3つの技術が必要になる。

① 子どもや保護者、社会が訴えたり表現したりすること (「**主訴**」) から「**真のニーズ**」を見極める技術。

② 真のニーズから子どもと保護者、社会に「**もっとも適切な実践**」を実施する技術。

③ 実践を「**評価** (本当に効果があったのか確認)」して、さらによりよい実践に生かす「**フィードバック**」技術。

もう少し具体的に説明すると、次のとおりである (図1-1)。

① 子どもが行動や言葉で示すこと、保護者が訴えることは、そのまま「**真のニーズ**」ではない。その奥に「**真のニーズ** (本当の思いや願い)」が隠れている。プロは「**カン**」や「**経験**」のみに頼るのではなく、専門職の知恵を集めた**共通言語**としての本書で紹介する「**プロのためのさまざまなツール**」などを使って、他のプロと共有しながら「**真のニーズ**」を見極めることができる。

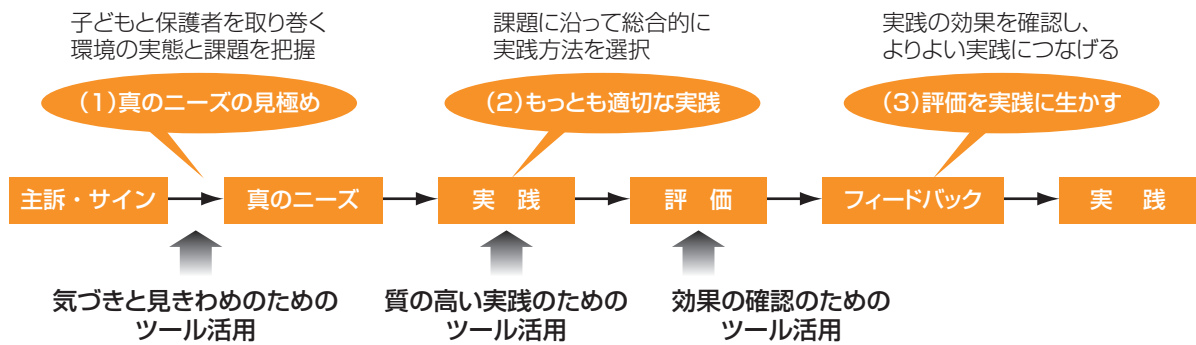


図1-1 子育て・子育てエンパワメント(「育つ力」と「育てる力」をはぐくむ支援)プロの技法図

- ② 真のニーズが見極められれば、それに沿って「もっとも適切な実践」を、自信を持って選択して実施できる。
- ③ 実施した後が肝心である。「本当に効果があったのか」きちんと子どもと保護者、社会に説明できること、さらによりよい実践に生かしてこそプロ。そのためには、「プロのためのさまざまなツール」を使って、何が変わったのか、何は変わらなかったのか、もっとどうしたらいいのか、他のプロと共有しながら一緒に考える。
- ④ そしてプロとしての技術はますます磨かれて、さらに子どもと保護者の最善の利益を守ることができるようにパワーアップする。

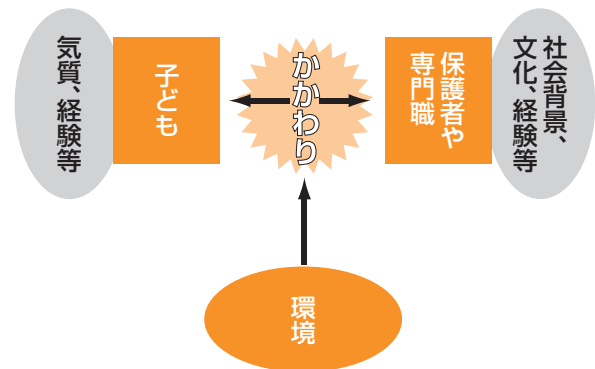


図1-2 プロ技術を発揮するための視点<sup>1)</sup>

さて、「プロの技法」を使うために便利な「ものの見方(視点)」を紹介しよう<sup>2)</sup>。

それは、次の4つの側面からものごとを捉える視点である。かかわりを重視する「システム理論」に基づいている。

- ① 子ども
- ② 保護者や専門職
- ③ かかわり
- ④ 環境

実践には、保護者や専門職と子どもとのかかわり、周囲の環境とのかかわりの要素が含まれる(図1-2)。保護者や専門職は社会背景、文化、経験などが背後にあり、また子どもは気質や経験などを持っている。「かかわり」は、それらが反映された形で起こる。

すなわち、これら4つの側面を捉えることで、気づきや見きわめができるとともに、実践や効果の確認にもしっかりと役立つことができる。

ところで、子どもの育つ力をはぐくむ「環境」には、

どのような配慮が必要だろうか？

わたしたちは米国で開発された指標<sup>3)</sup>をもとに、日本版の「子育て環境チェックリスト」<sup>2)</sup>を作り、有効性を確認してきた。子育て環境に必要な条件は、次の8領域に整理されている。

- ① 日常生活の中に多様性に富んだ人とのかかわりの機会があること。
- ② かかわりが情緒的で言語的な反応性に富んでいること。
- ③ 制限や罰が回避されていること。
- ④ 年齢相応の自主性が尊重されていること。
- ⑤ 子どもの発達状態に見合った物的な刺激(おもちゃなど)が存在すること。
- ⑥ 子どもの外出機会がありさまざまな外部社会に触れること。
- ⑦ 子どもの発達に配慮した安全な環境が整備されていること。
- ⑧ 日常生活の中で育児に対する社会的なサポートがあること。

このポイントを踏まえながら、4つの側面からしっかりと捉え、プロ技術を大いに発揮したい。